

「向こう岸に渡ろう」

2021年6月

校長 森野 章二

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。 (マルコによる福音書4章35節～5章1節)

イエスの弟子達は湖で嵐に遭遇した時、「何故こんな目に遭うのだ、イエス様の指示に従って船をこぎ出したのに」と不平不満や疑いが出てきたかもしれません。実際彼らは、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」とイエスに文句を言っています。しかし、一行は最終的には目的地である向こう岸に無事到着しました。しかも、自分たちの先生には嵐を静める力まであることを目の前で体験する、という大きなオマケつきで。

清教学園に入学した一人ひとは、神様によって導かれて入学した生徒であると私たちは考えています。そして、一人ひとりに到達すべき目的地が与えられているのだと信じています。途中、色々な嵐が訪れるかもしれません。神様が導いてくれたのなら、何故こんなことが起こるのだ!と叫びたくなるような嵐、試練が来るかもしれません。しかし、弟子達が無事に目的地に到着したように、私たちも目的地に到達できるのです。そして、嵐が来たからこそ経験できた素晴らしい体験、人間としての成長という大きなオマケがつくことでしょう。

コロナ禍の不安、色々な制限。希望が持てず、やる気が出ないという人はいるでしょうか。その人は、今が嵐の真っ只中なのかもしれません。神様が共にいてくださるので、船が沈んでしまうことはありません。嵐の過ぎ去った後、目指していた目的地に到達できることを信じて、そしてひと回り成長した自分を発見できることを期待して、一步一步前に進んで行けるように祈っています。

私は若い頃、痛い経験をしたことがあります。まだ車の運転にも慣れていなかった時期、教会の牧師に頼まれて、何人かのゲストを迎えに行きました。ハワイから来られたミュージシャン3人で、この人たちは音楽を通してキリスト教を伝える音楽宣教師のような働きをしていました。その人たちを招いて教会でコンサートを開く計画で、車で1時間ほどの宿舎まで迎えに行きました。

(次ページに続く)

車の運転に慣れていないことと、道が分からない初めての場所であったこともあり、友人に付き添ってもらいました。当時はカーナビもスマホもありません。その友人は、あの宿舎なら何度も行ったことがあるから大丈夫、まかせとけ。という感じで、私も完全に頼りにしていました。

ところが、30分程走ったところで、友人の様子がおかしくなりました。「あれ～、おかしいなあ…。」どうやら道順の記憶が不確かであったようで、やっと宿舎に着いた時には、コンサート開始まで1時間あるかないかというきわどい時間でした。宿舎で待っていた世話役の方は、イライラした気持ちを抑えて、時計を見ながら、「このタイミングでは、少し遅れるのはもう仕方ないから、慌てずに確実に教会まで連れて行ってあげてください。」と仰いました。

ゲストを車に乗せ、走り出したのは良いのですが、来る時グルグル回ってやっと宿舎に着いたので、帰り道が全然分かりません。友人もお手上げ状態。仕方なく、感覚を頼りにとにかく車を走らせました。時計はどんどん過ぎていきますが、どこを走っているのか全く分からない状態です。かなり焦りながら、コンサートの開始時間、30分遅れくらいですむかなあ、などと計算していました。

でたらめに走っているうちに、見当違いの方向に来てしまっていることだけが分かりました。しかしどっちへ行けば良いのか、道は分かりません。ついには、乗る予定のなかった高速道路に、いつの間にか入ってしまいました。神戸方面直進とか、奈良方面右方向とか、信じられないような表示が出ています。「一体どこまで行ってしまおうだろう。コンサートはもう中止かな。どうやって責任取ろう。」などと半分やけくそになっていたところ、前の方の行き先表示板に、馴染みのある地名が書いてありました。教会のある場所です。「まさか」と思いながら表示の方向にハンドルを切って、しばらく走ると高速の出口が見えました。出口を出ると、教会のすぐ近くがよく知っている道路に出ました。

わけもわからず走っているうちに、目的地の方へ導かれていたようです。何とコンサート開始の約15分前に教会に到着し、少し休憩をしてコンサート開始、という驚くべき結末となりました。

不思議な体験を自慢したいのではありません。また、私の取った行動は、決して誉められるものではありません。大切なゲストを迎えに行くというのに、非常に無責任な姿勢です。それでも敢えて、いい加減な自分の恥ずかしい体験を共有させて頂きました。それは、神様の導きを受けて進み出す時、途中で色々な嵐、試練、失敗など、たいへんなことが起こって、本当に大丈夫なのかなあと思われるようなことがあったとしても、神様の助けを頂きつつ前へ進み続けるならば、最終的には目的地に到着できる、目的を果たすことができる、ということをお伝えしたかったからです（ただし、皆さんはどこかへ出かける時にはきちんと地図を確認しておいてくださいね）。

コロナ禍が皆さんの大切な学園生活を台無しにしてしまうようなことを許さず、定められた目的地に向かって一步一步前進して行く毎日でありますように。